



# 男女共学いよいよスタート

広島工業大学高等学校 全日課程  
教頭 福地 光文

## THE男子校

「皆さん、知っていますか?男子校は全国的にもどんどん減ってきているんです。でも、広島工業大学高等学校は、希少な、男子ばかりの高校です!周りは男だらけ、気兼ねなく何でも話ができ、必ず仲間もできる!スポーツマンもいればオタクもいる。男子校はいいぞ~」そして決め台詞は「男子を育てる!」

これは、毎年、各中学校で行われる高校説明会にて、副校長が声高々に訴えてきたフレーズです。このフレーズで会場では笑いが起きて盛り上がり、大変好評を得ていました。

長らく「工大高校といえば男子校」という確固たる位置付けの学校でした。

## センセーショナル

平成28年2月、本校は38年振りとなる女子生徒募集の再開を発表しました。マスコミに取上げられたこともあり、方々から大きな反響がありました。しっかりとしたプランを基にした発表ではありましたが、少なからず不安も感じていました。

その不安は、長い男子校の歴史の学校に、はたして女子生徒が来てくれるのだろうか?というものでした。

## 学校改革

女子生徒募集再開のタイミングには主に二つのポイントがありました。一つは、単に生徒数減少による定員確保のためにはしないということです。

そこで本校はより教育内容を充実させるために、平成24年度から学校改革をスタートさせました。その第1弾は特

別進学類型の強化です。プロジェクト委員会を組織し、研修を通じて検討を重ね、本校としてのスタイルを築き実践しました。

改革1期生が卒業する頃には、これまでにない大学への合格が相次ぎ、進路実績も向上しました。それに伴い、これまで苦戦してきた入学定員もここ数年は確保できるようになりました。タイミングの一つはこの学校改革の成功が不可欠でした。

## リケジョ

二つ目は社会変化により、女性技術者育成の要請が高まったということです。

昨年、先進7か国(G7)の科学技術相会合が日本(茨城県つくば市)で開催されました。その会合では、女性研究者の活躍拡大のため、国際的なネット

ワークづくりが議論されたようですが、日本の理系女性いわゆる「リケジョ」は各国より少ないことが判明しました。日本の科学技術分野の女性研修者の割合は14.7%で、英国、イタリア、米国の半数以下だったのです。原因の一つとして、幼少期からの刷り込みの積重ねから「理系は男子」と思い込んでいるのではないかという見方もあるようです。

考えてみると、私自身、小さい頃はミニカーで遊んでいましたが、妹は人形で遊んでいました。親が何となく与えていたのでしょう。高校生の頃、文系・理系の選択では理系生徒は圧倒的に男子でした。

しかし、近年、社会は大きく変わろうとしており、自動車や家電などの技術開発の分野でも、むしろ女性の視点を生かしたイノベーションに期待が高まっているようです。昨年、東京のある名門女

子高校に視察に訪れたところ、この学校では文系・理系選択はちょうど半々となっており驚きました。受験科目の関係もあると思いますが、確実な変化を実感しました。社会のニーズに敏感に反応しているということなのでしょう。

事実、安倍政権の目玉の一つでもある一億総活躍社会実現に向けた取組みも始まり、男女共同参画の旗のもと、女性の活躍の場は理系の職場にも広がりをみせつつあります。

本校はこれまでも広島工業大学との高大連携を進めてきましたが、この強い連携は本校が安心して女子生徒を迎えることができる大きな要因の一つでもあります。広島工業大学は平成19年、女子学生キャリアデザインセンター(JCDセンター)を設立し、理系女子をサポートする体制が整っています。

## マスタースケジュール

男女共学の再開が決まってからは、マスタースケジュールを基にした準備が始まりました。まずは施設設備の整備から着手しました。男女トイレや更衣室の改修に始まり、食堂もカラフルに生まれ変わりました。その新食堂(ウイステリアガーデン)では、この春からパンケーキなど多くの新メニューが登場する予定です。

また、学校生活を充実させるためにはクラブ活動の活性化が不可欠です。女子生徒が参加しやすいクラブの新設を検討しました。もとより本校は通常の高校敷地のおよそ2倍の敷地面積を誇っており、新しいクラブの活動場所として有効利用できるスペースを備えています。また、新校舎にも茶道、華道ができる



設備(国際交流エリア)を有し、日本文化庁として活動する予定です。さらに英会話部やダンス部を創部しました。

そのほか、新制服の提案や校則の検討など多岐にわたる内容を一つひとつ時間をかけて議論し、準備を進めました。

## アンケート

入試では予想を上回る女子生徒の志願があり、男子生徒の志願も前年より増加しました。この要因としては、男女共学の再開によるものであると考えていました。ところが、入試当日に行ったアンケートの結果から、そうではなかったことが判明しました。

「本校を選んだ理由は何か」という質問事項の一つの「本校受験の1番の動機」の女子生徒の回答に注目しました。すると、最も多かったのは「教育内容(特進類型や3R's+Eへの期待)」だったのです。以下、「校風、雰囲気」

「クラブ活動」の順で、「共学」「施設、設備」は上位ではなかったのです。

先にも述べましたように、学校改革第1弾の特進類型の強化の成果、そして第2弾の総合類型の教育内容(英検、数検の取得を目指した習熟度別での授業展開)への今後の期待が評価されていたのです。

## 最後に

話は戻りますが、冒頭の高校説明会で、男女共学の再開を発表してからはすっかり様変わりしました。「共学はいいぞ~」、決め台詞は「男子を育てる!」さらに「女子も育てる!!」。

これからの工大高校は男子生徒も女子生徒も確実に育てる学校になったのです。

男女を問わず、生徒のあらゆる可能性を伸ばしたい。その準備は万端整いました。

